

経営比較分析表（平成29年度決算）

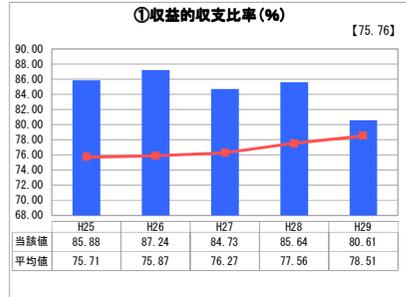
京都府 宮津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	25.72	2,741	

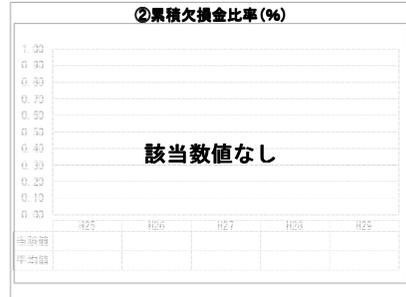
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,324	172.74	106.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,683	22.30	210.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



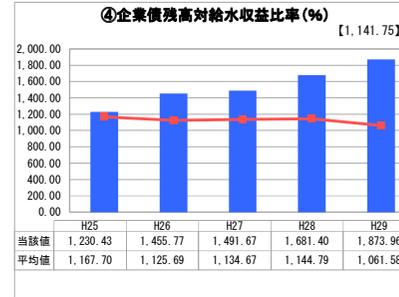
「単年度の収支」



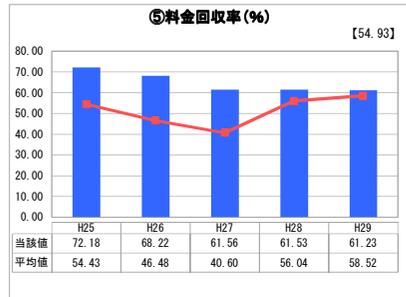
「累積欠損」



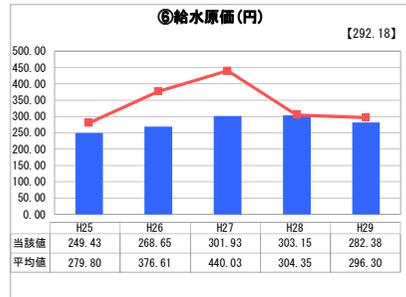
「支払能力」



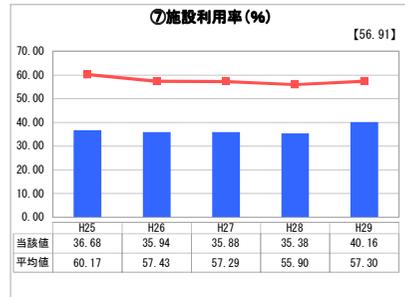
「債務残高」



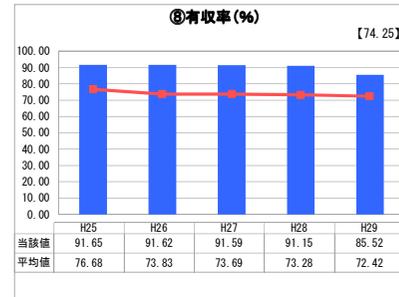
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

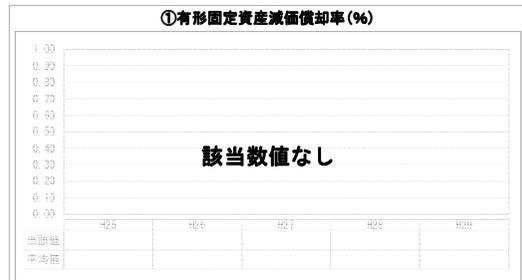


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

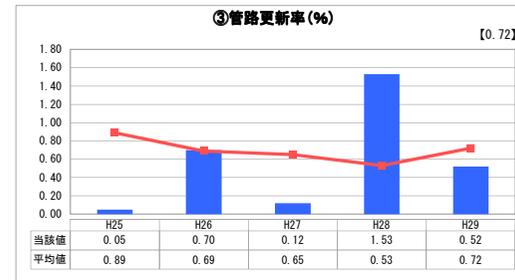
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率
H23の料金改定により、類似団体と比較すると高い比率で推移しているが、一般会計からの基準外（赤字補てん）繰入も受け入れており、更なる収入確保と経費抑制を図る必要がある。
- ④企業債残高対給水収益比率
施設の統合整備や老朽石綿管の布設替等を積極的に実施しており、類似団体と比較すると高い比率となっている。
- ⑤料金回収率
H23の料金改定により、類似団体と比較すると比率は上回っているが、年々減少傾向にあり、収入の確保及び給水費用の節減に努める必要がある。
- ⑥給水原価
高利率企業債の繰上償還等により、一定の費用の効率性は確保しているものの、更なる給水費用の節減に努める必要がある。
- ⑦施設利用率
給水区域は山間部集落等人口が少ない地域が多く、類似団体と比べると比率は低いものとなっており、小規模施設の統廃合により効率的な運用を行う必要がある。
- ⑧有収率
現在のところ、類似団体と比較すると高い比率で推移しているが、減少傾向にあることから、老朽管の布設替等により、更に改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ③管路更新率
石綿管の布設替については、H30の完了を目指し積極的に事業実施した結果、H28は比率が大きく上昇したが、H29は平均以下となった。
H30に水道事業との経営統合を行い、統合後、水道ビジョン及び経営戦略を策定したうえで、老朽管路を順次更新していく予定としている。

全体総括

現在のところ、経営の健全性、効率性は一定確保しているが、一般会計からの基準外繰入によるところが大きい。
給水人口の減少、老朽化施設の更新など、経営を取り巻く環境は厳しい見通しとなることから、更なる経営改善を図る必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。